やまなし発展の芽

郡内織物
産地のブランド力向上を目指して
～「中田プロジェクト」が始動～

山梨県ブランディング総合プロデューサー
中田 英寿さん（なかた ひでとし）

甲府市出身。県立韮崎高校卒業後、Jリーグ ベルマーレ平塚（現・湘南ベルマーレ）に入団。オリンピック日本代表に最年少で選出され、1996年アトランタオリンピックに出場。欧州の名門クラブなどで活躍し、2006年に現役引退。2009年に一般財団法人TAKE ACTION FOUNDATIONを設立、チャリティーマッチや日本文化支援活動をしている。2003年より東ハト執行役員CBO。2013年10月に山梨県のブランディング総合プロデューサーに就任。

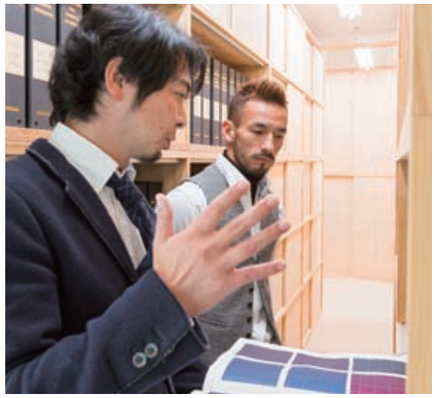
海外からの安価な製品やクールビズによる需要減少などで苦戦を強いられている全国有数の織物産地「郡内地域」。

しかし、産地メーカーは、かつて一世を風靡（ふうび）した「甲斐絹（かいき）」の伝統を受け継ぐ高い技術力とクオリティー、流行を敏感に捉えた素材やデザインの独自ブランド立ち上げなどにより、製品と産地の魅力を国内外に積極的に発信し、そのブランド力アップに取り組み始めています。

このたび、山梨県のブランディング総合プロデューサーに就任した中田英寿さんが、戦略的ブランディングプロジェクトの一環として、奮闘する産地織物メーカーを訪問しました。

日本の素晴らしさをもっと知ってもらいたい

「2006年の引退以来、ずっと海外、そして日本国内の旅を続けてきました。それは数多くの文化や環境を自分の目で見て、体験することで自分ができること、やりたいことを探す旅でした。特に5年前から『自分の生まれた国についてもっと知りたい』という思いで47都道府県全てを巡り、各地の伝統工芸や地場産業、文化、農業などに触れ、その面白さ、素晴らしさを感じてきました」



10月に山梨県のブランディング総合プロデューサーに就任した元サッカー日本代表の中田英寿さん。国内外の産業や文化に触れてきた中田さんならではの視点で山梨県を盛り上げることが期待されます。

「平成23年、二週間ほどかけて山梨県内を旅してみて、本当に豊かな場所だと思いました。素晴らしい風土、そこから作り出される産業、文化、農業……自分が育ったころには気付かなかった魅力にあふれていました。残念なのは、それが全国的に伝わっていないこと。また、東京から近すぎるために特長が分かりづらくなっている。でも少し視点を変えれば、その近さは逆に利点になるはずです。僕の目標は、日本の素晴らしさを世界に発信し、つなげていくこと。そのためにも、まず生まれ故郷である山梨の魅力を日本、そして世界に伝えていきたいと思っています」

技術を未来につなぐための取り組み

そんな中田さんがプロデューサーとして最初に取り組んだテーマが『郡内織物』。伝統的な織物「甲斐絹」の技術を受け継ぎ、高い品質を誇る郡内地域の織物産業ですが、近年は海外製品に押され、かつてのような勢いはありません。

県産業支援課長の平井さんによると「課題の一つは、OEM（発注元ブランドとして販売される製品を製造すること）が中心になっていること。そのため認知度が上がりにくく、業績も受注状況に左右されることになる。商品開発力、デザイン力を強化して提案型の事業展開で国内外の取引先を拡大するとともに、各社が独自ブランドを立ち上げることが突破口になればいいと考えています」

いい物を作るのは得意だが、売るのは苦手。中田さんは、そういった課題を見据えながら、4軒のメーカーを訪問しました。国内外有名ブランドのネクタイ生地を多数生産する「株式会社川栄」。天然素材にこだわり有名ブランドのストールを手掛ける「武藤株式会社」。昔ながらの織機を使い、独自ブランドのリネン製品を作り続けている「有限会社テンジン」。そしてオーガニックコットンにこだわった製品を作る一方、甲斐絹の伝統を守る「甲斐絹座」を立ち上げた「株式会社前田源商店」。いずれも現状を打破しようと、技術を未来につなぐための取り組みを行っているメーカーです。

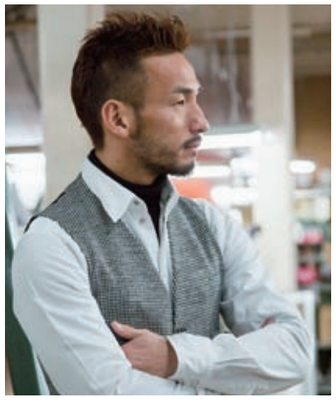
人と人、人と物、企業と企業をつなげること

中田さんは、各メーカーの生産現場を見学し、商品を細かくチェック。積極的にインタビューも行い、現状の把握に努めました。

「どのメーカーも驚くほどに高い技術を持っているし、商品のクオリティーも見事。糸作り、生地作りもやって多種多様な商品を作ることができるのは、すごいと思いますが、逆に独自性を見えづらくしている面もあるように感じました。『郡内織物』としてのアイデンティティーをどう築いていくか、それをどのように一般消費者に向けて発信していくか。みんなで考えていく必要があると思いました」

視察後には、他のメーカーも参加した戦略的ブランディングプロジェクト推進会議に出席。各社の意気込みに、中田さんも刺激を受けた様子です。

「僕は魔法使いではないので（笑）、いきなりヒット商品を生み出せるわけではありません。僕にできるのは、生産者の視点を変える気付きやきっかけを作ったり、人と人、企業と企業をつなげたりすること。思い込み、既成概念を打破する提案ができればいいと思っています。皆さんとお話をして、みんなで一つの方向を見て力を合わせれば『郡内織物』を世界に通用するブランドとして発信していくのも夢ではないと感じました。また作り手だけでなく、支援する行政や地域に住む県民の皆さんの意識も変えていきたい。そのために僕ができることは、精いっぱいやっていきたいですね」



世界を舞台に活躍してきた中田さんの力を得れば百人力。山梨から世界へ。いよいよプロジェクト始動です。

郡内織物を世界に発信するために

郡内織物が広く流通するようになったのは江戸時代初期から。郡内地域で生産された絹織物は「郡内縞（ぐんないじま）、甲斐絹」と呼ばれ、高級な絹織物として知られていました。現在の産地としての特長は「多品種生産」。ネクタイ地や服飾裏地、婦人服地、ストール、傘地などさまざまな生地や商品を作っています。どのような要求にも対応できる高い技術と素早い対応が可能な生産体制が郡内織物の強みです。

「技術や品質については、ヨーロッパの高級ブランドも認めてくれています。問題はデザイン力。もっと勉強が必要だと思っています」（川栄・川村昌洋さん）

「販売網を思うように作れない。もっと若い人に手に取ってほしいんです」（前田源商店・前田市郎さん）

各メーカーもオリジナリティーの確立には苦労しているようです。

各社を視察した中田さんは、一つの解決策を見いだしたようです。

「もっとユーザー、消費者の視点を入れていくべきだと感じました。どんな人がどんなシーンで使えばいいのかという提案をして、消費者に使い方を知ってもらうための努力も必要だと思います」

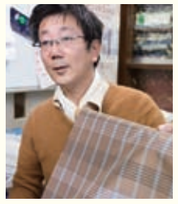
武　藤

シルク、ウール、カシミアなど、糸からこだわったストールを生産。天然素材の極細繊維を巧みに操って醸し出す繊細な風合いは、国内でも有数。有名ブランド向けの肌触りのいい高級ストールを作り続けている。自社ブランド「OPIYO」による海外展開も開始。

川　栄

1915年創業の老舗で、デザインから織りまでの一貫体制が強み。最高級シルクのネクタイ生地は、世界的なファッションブランドも認める品質。40年以上にわたる自社生地サンプルを"財産"に、自前のデザイン力で提案型への展開を図っている。

前田源商店・「甲斐絹座」



オーガニックコットンにこだわったアイテムを生産する前田源商店。地元メーカー4社共同で立ち上げた、県産繭を使い現代の技術で甲斐絹を復刻する「甲斐絹座」ブランドでは、ストールがニューヨークのMoMAデザインストアに採用されるなど、世界がそのクオリティーを認めている。

テンジン

シルクネクタイから転換し、妹夫婦のメーカー「オールドマンズテーラー」の企画・デザインによるリネン製品の自社ブランド「ALDIN」を立ち上げた。自社工場で旧式のシャトル織機を使って織るリネンは、素材にこだわった風合いと優れたデザイン性で高い評価を受けている。

ブランド力アップで産地間競争を勝ち抜く!!

全国有数の技術を誇る産地でありながら安価な海外製品などの影響を受け、ここ十数年で生産が3分の1にまで落ち込んでいる『郡内織物』。

こうした中、生き残りを懸けた国内外の産地との競争を勝ち抜くために、高い技術力とデザイン性のハイクオリティー生地を国内外へ積極的にPRするとともに、自らの名を冠した独自ブランドを興すことにより産地に輝きを取り戻そうと、数社連携による新技術開発やブランドの立ち上げ、アパレルブランドとのコラボ商品の開発、大学とのコラボによるテキスタイルや雑貨の開発など、数多くの取り組みが行われており、県などがこれを支援しています。

産地の技術力×学生の感覚・発想 FUJIYAMA TEXTILE PROJECT

富士吉田・西桂のメーカーと東京造形大学テキスタイルデザイン専攻の学生がコラボ。学生のユニークな発想を高い技術力で形にし、魅力的な製品に作り上げている。産地メーカーに就職した学生もいて、産地に若い息吹を吹き込んでいる。

ヤマナシハタオリトラベル

「富士のふもと、スロープロダクツに出会う旅」をテーマに、エキュート立川、渋谷ヒカリエ、新宿伊勢丹、銀座三越などで、加盟11社が織り手を前面に出してオリジナルブランドを展開する期間限定ショップ。一般消費者と対面することで、ニーズに合った商品の提案につなげていく。

販路開拓

国内販売業者向けのプロモーションを実施するとともに、香港や上海などアジア市場のほか、欧米での販路開拓を目指して、トレンド発信で有名な展示会へも出展している。

産地で作り手に出会うBtoB（企業間取引）のマッチングを目的に、これまで接点のなかったテキスタイル・プロダクト・ファッションなどの第一線で活躍するデザイナー、開発担当者と産地をつなげるバスツアー。産地の情熱・技術との出会いが新しいビジネスや商品につながることも期待されている。

中田プロジェクトとは

県のブランドイメージ向上のため、郡内織物やワインなどの物産をはじめ、風土に根差した伝統工芸や文化など、山梨の魅力を戦略的にブランディングするプロジェクトです。
ブランディング総合プロデューサーに、本県出身で世界への発信力を持つとともに、国内外を旅し各地の伝統工芸などの知識も豊富な中田さんを迎えることにより、情報発信や商品開発などに取り組み、ブランド力の強化を目指します。その第一弾として郡内織物のブランド力アップを検討していきます。

【問い合わせ先】観光企画・ブランド推進課　TEL 055-223-8876　FAX 055-223-1574

【問い合わせ先】産業支援課　TEL 055-223-1543　FAX 055-223-1534　産地の取り組みは シケンジョテキ 検索